第４回江田島市学校規模適正化検討委員会　議事録

１　日　時　　令和８年２月１０日（火）18 時 15 分～20 時 03 分

２　場　所　　能美市民センター２階　会議室

３　議　事
（１）開会挨拶
（２）江田島市の学校に関する説明会報告
（３）先進地視察報告
（４）保護者アンケートの結果について
（５）協議
（６）今後のスケジュールについて
（７）閉会挨拶

４　要　約

江田島市で開催された第 4 回学校規模適正化検討委員会では、地域の小中学校の統合や複式学級の運営など、教育環境の改善について議論が行われました。参加者の間では、児童数の減少に伴う教育の質への影響が懸念され、統廃合によるクラスや学校構成の適正化が提案されました。保護者アンケート結果では、小学校で 1 クラス 20～30 名程度の規模が望まれるとの意見が多かった一方で、地域の学校を維持したいという根深い意見も見られました。

また、竹原市の義務教育学校の視察報告が共有され、小中学校を一体化した新しい学校運営のメリットとして生徒指導の一貫性や、学年間の交流による教育効果が議論されました。しかし、固定化された人間関係や教員の負担増など、デメリットも指摘され、導入時の課題が浮き彫りとなりました。

会議では更に、地域内の学校統廃合を進める基準やこどもたちの意見を取り入れた制度設計の必要性が議論されました。

複式学級については、少人数指導による個別対応や自主性の伸長がプラス要因として挙げられたものの、教育環境の不安定さや子供の社会性への影響が懸念される意見が出されました。

参加者による意見交換では、地域の教育を維持しつつも、児童数に応じた適正な学校規模を検討する必要性が確認されました。また、こどもたちにとっての教育効果を最大化するための方策として、小中学校統合案や地域の教育リーダーが連携を深める活動も提案されました。

委員会は、次回の会議に向けて事務局が具体的な統廃合プランと取組案を準備することを予定しており、地域全体の理解と協力を得るための取組を進めるとともに、より良い教育環境の構築を目指しています。

５　内　容

事務局　　皆様、本日は御多忙の中、「第４回江田島市学校規模適正化検討委員会」に御出席いただき、誠にありがとうございます。

本日、司会を務めさせていただきます、江田島市教育委員会事務局の濵中です。どうぞよろしくお願いいたします。

この委員会の委員名簿や議事録等につきましては､HP 等で公開する予定としておりますので、御了承ください。

合わせて、議事録作成のため、録音や写真撮影についても御了承いただければと思います。

なお、本日の検討委員会は、午後８時を終了予定としております。

御協力のほどよろしくお願いいたします。

では次第に沿って進めさせていただきます。

１　開会です。

それではまず初めに検討委員会　委員長より開会の御挨拶をお願いいたします。

委員長　　この委員会の委員長を仰せつかっております、広島大学の丸山といいます。皆さんと議論を重ねさせていただいて、また今回アンケートの結果を皆さんと一緒に確認をしますが、何を問うのかというところから、前回、結構時間をかけて検討して、少しでも回答者が回答しやすい、回答しやすいっていうのは、自分の考えを私達に伝えやすいようにっていうので議論をする中で、ひょっとしたら私達の中で共通理解が少しずつできていってるんじゃないかなというふうに思うところもございます。1回目、私自身、まだ江田島のことをよく存じ上げてなくて、呉市出身なので、友人がたくさん江田島に住んでいて、呉宮原高校、なくなるかも知れないですが、倉橋、音戸、江田島っていうのはとても身近には感じてはいたんですけれども、改めて、あの今、江田島市がどういう状況にあるのかというようなところを学ばさせていただいて、文部科学省の学校政策というふうなところと、どうすり合わせてというところを教育学の専門家としても、現実問題っていう中で考えさせていただくことができました。

それぞれ違う分野の人、違う地域の人、関心が違う人が集まっていますが、狙っているところ、目標にしているところは、これから先の江田島の学校教育をどうしていくかということだと思います。

住民の人のご意見も聞きながら、この委員会で良い提案ができるようになったら、市の教育委員会の皆さんと一緒に力を合わせていきたいと思いますどうぞよろしくお願いいたします。

事務局　　ありがとうございました。
それでは、まず本日の配付資料の確認をさせていただきます。
順に読み上げますので不足がありましたら挙手をお願いいたします。
・本日の検討委員会次第
・配付資料①「江田島市の学校に関する説明会報告」
・配付資料②「先進地視察報告」
・③先進地視察報告でいただいた
「義務教育学校　吉名学園について」
・④同じく先進地視察報告でいただいた
「竹原市における学校規模適正配置の取組について」
・配付資料⑤「義務教育学校について」
・配付資料⑥「保護者アンケート結果」

（資料確認終了）

事務局　　では本日の出席者は１７名です。定足数に達しておりますので設置要綱第６条第２項の規定によりまして会議の方を開催いたします。
なお、山下委員から欠席の連絡があったことを御報告します。
ではここからは委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。
よろしくお願いいたします。

委員長　　それでは、２の議事に入らせていただきます。
（１）江田島市の学校に関する説明会報告
事務局からこのことについての説明をお願いします。

事務局　　お手元の資料「江田島市の学校に関する説明会報告」を御覧ください。
第２回学校規模適正化検討委員会において、保護者アンケートを実施するにあたり、資料配付のみならず、もっと詳しく江田島市の学校について伝える機会を設けた方がよいとの御意見を委員の方々からいただきました。
それを受け、去る 12 月 15 日から 12 月 19 日にかけて、市内５か所において江田島市の学校に関する説明会を実施しました。
資料の「２実施概要」を御覧ください。
日時と開催場所、参加人数を示しております。
なお、各会場には、三高地区を除き、こども園の先生方が御参加く

ださいました。参加人数は、その先生方の人数も加えたものとなっております。

当日は、アンケートとともに配布したリーフレットの内容に基づき、江田島市の学校に関する説明を行うとともに、質疑応答の時間を設けて実施しました。

資料の「３質疑内容」は、各地区から出された意見や質問とそれに対する教育委員会の回答を掲載しております。

報告については以上です。

委員長　それでは、このことについて委員の皆様より、何か御意見や質問等ありますでしょうか。

委員Ａ　意見や質問ではありませんが、 この度、1 週間にわたり毎日実施していただき、ありがとうございました。大変だったと思います。参加者として保護者の方々からお話を伺ったところ、現在の課題についてよく理解できたという感想を聞きました。そのため、実施していただいた意義は十分にあったのではないかと思います。改めて、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

委員Ｂ　大柿市民センターに参加させていただきました。地域の方々ともお話しする機会があり、とても好感を持つことができました。合併や統廃合に対しては、一般的にマイナスのイメージを持たれがちですが、実際にお話を聞くことで印象が変わったという声がありました。

直接お話を伺うことで、思っていた以上に明るい未来が待っているのではないかという気持ちが伝わったのではないかと思います。

委員長　御参加された方、或いは参加された方からこういう意見を聞いたりっていうのも共有していただければと思います。

委員Ｃ　会議前に資料を拝見し、とても良い取りまとめだと感じました。

保護者の方々がどのような心配をされているのか、また、どのような思いを持っているのかがよく理解できる資料だと思います。今後のあり方を考える上でも非常に参考になると感じました。

一点だけお尋ねしたいのですが、参加人数はそれほど多くなかったようですが、声かけはどのように行われていたのか教えていただけますか。

事務局　　今回、説明会につきましてはチラシの方を作成して、アンケートを送付時に全てに入れ込んで、各世帯の方に通知をしております。

日程調整につきましてはＰＴＡの方にも御協力いただきまして、1週間やるという話になりまして、その部分の発信はＰＴＡにお願いした形です。

委員長　　この参加人数は大体期待したとおり、想定されたとおりですか。

事務局　　参加者の数については、想定よりも少なかったという印象を持っています。先ほどの話にもありましたが、各会場にこども園の先生方が約３名ずつ来てくださっていたので、その人数を引き算すると、実際の保護者の参加人数がお分かりになるかと思います。

おそらく、配布したアンケートや資料を通じて情報が得られると考えられていたのかもしれません。また、夜の時間帯が参加しづらかった可能性もあると感じています。それでも、来てくださった方々からはさまざまな意見を伺うことができました。

委員長　　少しお時間をいただきましたが、一応最後まで皆さんにご覧いただけたようです。それでは、次の議事に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

もし気になる点があれば、ここについて再度お話しすることも可能ですが、時間が限られておりますので、次の議題である先進地視察報告に移らせていただきます。こちらについて、事務局より説明をお願いいたします。

事務局　　それでは、資料「先進地視察報告」をご覧ください。

第３回委員会として、今後の学校の在り方やその実現に向けた方策等の協議の参考とするために、竹原市にある義務教育学校、竹原市立吉名学園の視察を行いました。ここで少し、義務教育学校について説明をさせていただきます。

本日お配りしております参考資料「義務教育学校について」をご覧ください。

「1　義務教育学校の概要について」 義務教育学校は、小学校（１～６年生）と中学校（７～９年生）の９年間の教育を一貫して提供する新しい学校形態で、平成２８年（２０１６年）度に制度化されたものです。

続いて、「２　制度化の目的」をご覧ください。

この制度の目的は、小・中学校段階の教職員が９年間を通じて実現

したい教育目標を共有し、一体的な組織体制の下、9 年間一貫した系統的な教育課程を編成・実施することができる学校種を新たに設け、設置者が地域の実情を踏まえて小中一貫教育が有効であると判断した場合に、円滑かつ効果的に導入できる環境を整えるため（中教審答申による）とされています。

「3　制度の特徴」についてです。

修業年限：9 年間

課程の区分：小学校相当を「前期課程」、中学校相当を「後期課程」と呼ぶ。

組織の一体化：1 人の校長、1 つの教職員組織が運営し、従来の小中一貫校とは異なり、別々の組織を連携させるのではなく、1 つの学校として運営されます。

続いて、一般的に言われている「４　メリット」について説明します。

〇中 1 ギャップの緩和・解消
〇教育課程の柔軟性
〇異学年交流による成長
〇継続的な生徒指導と情報共有
〇校務の効率化

が挙げられます。

次に「５　デメリット」です。

●人間関係の固定化と問題の長期化
●新鮮さの欠如と刺激の減少
●高校進学時のギャップ
●達成感の喪失
●リーダーシップ機会の減少
●教員の専門性と負担

なお、この資料には「江田島市における義務教育学校の設置について」という資料も付けておりますが、こちらは実際に設置しようとした場合に課題となりそうな点を考察したものですが、視察報告と離れる部分となりますので、あくまで参考資料として時間のある時に目を通していただければと思います。

資料「先進地視察報告」にお戻りください。

「２　実施概要」です。

１２月１８日（木曜日）に視察を行いました。

この委員会からは７名にご参加いただきました。

「３　日程」です。 当日は、竹原市教育委員会より「竹原市における学校適正配置の取組について」説明を受けました。ここでは、こ

れまでの統廃合、そして今後の統廃合の見通しについてお話を聞きました。

大まかな説明となりますが、竹原市は、竹原市立学校適正配置懇話会を設置し、令和３年度から令和４年度にかけて話し合いを行い、今後の配置計画を立てました。竹原市は、今後コミュニティ・スクールを核とした義務教育学校を設立することにより、地域に根差した９年間の系統性のある小中一貫教育や、地域の教育力を生かした特色ある教育を推進するとし、令和９年度までに忠海ブロック、吉名ブロック、賀茂川ブロックの３ブロックにおいて義務教育学校を設立するとともに、令和１０年度以降には竹原ブロックも義務教育学校とし、最終的に必要が生じれば市内全ての小中学校を統合した義務教育学校とする計画を打ち出しております。

続いて、学校より「義務教育学校吉名学園について」の説明を受けました。学校の規模や小学校・中学校が一緒になった学校の起案システム、教科担任制の仕組み、特色ある学びの様子などについて話がありました。

その後、校舎の様子、授業の様子を実際に視察し、質疑応答の時間も設けていただきました。

当日の主な質疑の内容については、記載のとおりです。

委員長　実際にこちらに視察にいらっしゃった委員の方々が今日お越しですので、順番にとは申し上げませんが、手を挙げていただいて、感想や御意見をお聞かせいただければと思います。実際に吉名学園を訪れて、可能性やハードルの高さ、あるいは良い印象など、どのように感じられたかをお聞かせください。

委員Ｄ　まず、義務教育学校という概念については全く理解できていなかったのですが、訪問していろいろ拝見するうちに徐々に理解が深まりました。また、合併について考えた際、通常は人数が増えるというイメージを持っていましたが、実際には統合しても生徒数は十何名程度であることがわかりました。

中学校の２年生のクラスには男子しかいない例もありました。更に、校舎についても、中学校の校舎を増設して１学年を編成しているため、廊下が長くなるといった様子も拝見しました。

江田島で義務教育学校を作る際には、校舎などの問題が多くあるようです。また、現在進行中の統合があり、その数年後にさらなる統合が予定されているため、江田島がもしそうなるとした場合に、今の会議での決定が来年や再来年になると、その後の統廃合までに何年かか

るのか、またその間にこどもたちがどうなるのかということが少し心配です。

委員長　　はい。ありがとうございました。
　将来構想に関わるので何年もかかることですし、江田島は江田島の地理的なこともあるでしょうから、必ずしも竹原市と同じように考えられないところもあると思いますが、参考になる一つのケースとして視察に行っていただいたと理解しております。
　ざっくばらんにこういうふうに見たっていうところも共有していただければと思いますが。

委員Ｅ　　一般的に言われている、先ほど説明があった「4 番」と「5 番」のメリットについて、実際に学校を見学してみての感想や御意見があればいただけるとありがたいです。

委員Ｆ　　そうですね、向こうを案内してくださる方と一緒に同行していたため、メリットやデメリットについて詳しくは言及できなかったのですが、実際に見て感じたことがあります。各階を小学校低学年、中高学年、中学生と分けるのではなく、うまく中学生と小学生が混ざるように運営されている点は非常に良いと感じました。
　訪問する前は単純に小学校と中学校の統合という視点で考えていたのですが、実際に見学してみると、他学年間の交流の重要性や、中学校の部活動に関しても、6 年生から参加して体験できる制度があったりすることに触れ、とても良い取組だと感じました。
　江田島でこのような取り組みが実現できるのであれば、一つの良い例として、大柿中学校を義務教育学校にするというのも非常に良いのではないかと思います。しかしながら、古い建物の扱いや新しい大古小学校の課題もあるので、その解決も必要です。それでも、単純に中町小学校と鹿川小学校を 1 校にするのではなく、こうした良い点を生かした統合の方が、私は実施する意義があると感じました。

委員長　　人数が少なくなったからといって、後ろ向きの統合ではなく、新しい校種という呼び方がありますが、小学校や中学校ではなく、義務教育学校という新しい形態が生まれることで、前向きな変化が期待できるのではないか。そういった場合、こどもたちや保護者、教職員も頑張ろうという気持ちになれるのではないかという意見ですね。

委員Ｆ　　そうですね、ただ実際には市民の声として「やっと弟と離れられる

のに、また統合されて同じ中学校に通うことになったら、また下の子の面倒を見なければならない。」といった意見もあるようです。
　このような声は、少し面白い意見だなと感じました。

委員Ｅ　　ありがとうございます。言われているとおりで、デメリットで書かれているところって、これ、だったら大柿地区は今どうなんだろうということを感じてしまったので、あの今でも変わらないですよね。
　リーダーシップの機会の減少とかありますけども、このデメリットが出るってことは、かなり中学生が小学生の面倒を見てあげるみたいな、ある意味、いい点でもあるのかなと思ったりしたので、ちょっと御意見を伺ったんですけれども。
　中学生が小学生の面倒を見たりというのが実際生じている。

委員Ｆ　　各階ずつで活動を行っていることや、配信ルームがあり、どちらかというと中学生向けに設定されていますが、こどもたちが小さい頃からそのような環境を見られる機会があるのは、私のこどものときにも、そういった場があれば良かったのにと感じています。

委員Ｇ　　ちょっと付け加えていいですか。私は宮島学園に３年間、教頭として務めました。
　宮島学園は小中一貫校で、現在の義務教育学校という名称ではなく、小中一貫校という形態です。全校生徒は小学校１年生から中学校３年生まで合わせて約１１０名で、各学年は１０名程度、最大でも２０名には達していませんでした。多いところでも１６～１７名、平均して約１２名です。このような環境で、今おっしゃられたように、２階には１年生からずらっと並び、３階には中学生や高学年が並ぶ構造でした。
　１年から４年生までが前期、５年から中１までを中期、後期には中２と中３、すなわち８年生と９年生を設けていました。小学校の先生と中学校の先生は同じ職員室におり、前期、中期、後期それぞれの教員が協力し合う体制がありました。校長は１人で、小学校の教頭と中学校の教頭が共に存在していました。
　私が赴任する前は生徒指導上の課題があったと聞いていましたが、９年生（中学生の上級生）をリーダーとして、入学式で１年生（小学校1年生)の手を繋いで入場するなど､多くの関わりを持たせました。
　これにより、中学校３年生のちょっと突っ張った子が、ちっちゃい子に接することで優しい一面を見せるようになりました。こうした関わりを何年も続けることで、中学生も良いお兄さんのような存在にな

ったのではないかと思います。

また、遠足や野外活動も小中を通じて行うことができました。特に遠足は５、６年生以上が島の裏まで歩くという内容で、かなり厳しいものでした。小学校５年生あたりまでの参加は難しかったかもしれませんが、それぞれのグループに分かれてレクレーションを楽しむという形が取られていました。特に野外活動は３泊４日で実施することが多く、参加することで小中の生徒同士が連携し合う機会も生まれていました。

包ヶ浦での活動は特に印象に残っています。ここでは、小中を合わせて５年生と中１がそれぞれの班を別々に作り、出し物を考えるなどの交流がありました。掃除も全員で行い、以前は中学生がさぼることも多かったのですが、その姿もかなり減少しました。それぞれが見守ったり、声を掛け合ったりすることがあったからだと思います。

さらに、不登校のこどもたちも小規模な学校を求めて集まることがあり、沿岸部からもそういった子が来られ、学校に通えるようになるこどもたちも増えました。理科の授業は中学校の先生が６年生を担当し、社会は５年生、音楽はすべて中学校の先生が担当するなど、専門性を持ちながら融合した授業が行われていました。

私が知っている限りでは、小中一貫校で行ったサミットが一番良い経験でした。全国から約２００人が集まる中で、自分たちの取組を見てもらう機会がありました。当初、そんなことやりたくないと先生たちにも不満はありましたが、生徒と一緒に取り組むことで盛り上がり、新聞にも取り上げられるほどの成果を上げました。このように、地域に喜んでいただけたことが非常に印象的でした。

もちろん、メリットだけでなくデメリットも存在します。例えば、６年生の卒業式がないという意見がありますが、実際には６年生の段階で中３と一緒に卒業式を行っていました。公立高校入試が終わった後も、中学校３年生は２０日頃まで学校に通っていました。こちらの学校では６日又は７日に卒業式は行われています。

このような形で授業時数も確保しやすい環境にありましたが、他の一貫校では早めに卒業式を行うところもあると聞いています。

さまざまな要素を考慮しながら、一貫校のメリットを生かして、プラス思考でこどもを育てていくことが大切だと思います。さとうみ学習やさとうみ科学館との連携もあり、その魅力を発信することで移住者が増えることを期待しています。宮島もかつては人数が減りましたが、一貫校を設置することで存続できるようになった経緯があります。

個別に小中の先生が関わることで、多様なニーズに対応できる体制が整っています。

このように、一貫校のメリットを考えながら新しい提案をしていくというところは、一つの案になるとは思います。

委員Ｅ　ありがとうございます。先生、少しお伺いしたいのですが、ネットや資料を調べてみると、学校や先生の視点からのメリット・デメリットが多く取り上げられています。ですが、保護者にもいくつかのメリットがあるのではないかと感じています。

例えば、ＰＴＡ活動が簡素化され、統合後は回ってくる回数が減ることがあります。また、参加する人数が増えることで、役割の負担が軽減されるという点もあります。

こういった保護者視点でのメリットについて、デメリットも含めてまとめて教えていただけるとありがたいです。それと、校舎の問題についてもお聞きしたいのですが、具体的にどのように対処されていたのでしょうか。江田島市ではそういったところが問題になりそうだと感じています。

委員Ｇ　そうです。

委員Ｅ　先ほど何かおっしゃっておられたので、宮島とかこの竹原の例とか校舎の方ってどうされたんですか。もう既存のものを使ったんですか。

委員Ｇ　校舎はリニューアルされました。以前は中学校校舎と小学校校舎がありましたが、特に中学校校舎の耐震性が問題で、使用禁止となっていました。私が転勤した数年後にその校舎はすべて解体されることになりました。また、宮島には非常に良い体育館がありましたが、耐震基準を満たしていなかったため、使用できなくなりました。観客席のある今風のスポーツセンターのような体育館でしたが、残念ながら利用できない状態でした。

そこで、新しく体育館を建設することが決まり、私が離任する際には、古い小学校の体育館が新しくリニューアルされたと記憶しています。

委員長　リニューアルというのは改築という意味ですか。

委員Ｇ　改築だったと思いますね。耐震を合わせて小学校の元の校舎をリニューアルされたんだと思います。

増築みたいな感じですが、古いところは段差のところがありました。

委員Ｂ　　最初に説明を聞いたときは、具体的なイメージが湧かなかったのですが、校内を一緒に歩きながら詳細を説明していただき、非常に理解が深まりました。最初は１、２、３年生が１階、４、５、６年生が別の階で分かれて勉強していたとのことですが、「これでは違う」と感じて、やはり変更することにしたそうです。このようにトライアンドエラーを繰り返す姿勢に感銘を受けました。

決まったことだからと安心するのではなく、「もっと変えていこう」「こどもたちのために」と熱意を持って取り組む職員や教育委員会の皆さんの姿勢が素晴らしいです。特に９年生の担任の先生は大きな負担も感じているかもしれませんが、校内を見学した際には、授業はそれぞれの学年で行われているものの、掃除などはみんなで協力して行っているのが印象的でした。

廊下には「これをやりたい人を募集」といったポスターが貼られ、自由にやりたいことをつぶやける雰囲気がありました。放送室も図書室の一角にあり、本を読んでいる子もいれば、自分たちの活動を配信したいという子が集まってきていました。写真にあるようなバックで放送する準備も整っており、子どもたちが自分のやりたいことを発信できる環境が整っています。配信内容はローカルテレビで市の一般市民にも見られるようにしていて、そのわくわく感が市民に伝わるから、次の統廃合の話が出たときに、あまり反対が起こらないと言われていました。

また、異年齢での育ちに関するメリットも多いと感じました。世の中ではいじめなどの問題が取り上げられていますが、保育園などで異年齢で過ごすことで、問題が起きたときにはみんなで解決しようと寄ってくる姿が見られます。異なる視点から意見を出し合うことで、意見を交換しながら問題解決を図ることができるのではないでしょうか。このように、異年齢で育つことには様々な利点があると感じました。

副委員長　　今言われたように、基本的には教育委員会や学校がこどもたちのために取り組んでいる姿勢が印象に残りました。保護者に説明する際にも、「こどもたちに何が良いのか」という視点を持って説明すると、保護者も納得してくださり、不安感がないという点が非常に印象的でした。学校や教育委員会がこの義務教育学校の素晴らしさをしっかりアピールできていることが伝わってきます。

また、市のケーブルテレビなどを通じて、こどもたちの活動を動画で市民に見てもらう取組は、非常に大きな意味を持っていると思いま

す。このようなＰＲの方法によって、学校や教育委員会が協力していることが、保護者や市民にとって安心感を与えていると感じました。

教育委員会が示しているように、何年先のビジョンをしっかり持ち、そのビジョンに向けて学校がこどもたちを育てていく姿勢も重要です。このような視点を明確にすることで、教育委員会が一緒になってこどもたちを育てるという姿が強調されていて、共感を持てます。

校舎内の掲示物も興味深かったです。小学生の掲示物と中学生の掲示物が並んでいて、中学生が小学生の温かみのある掲示物を見る機会はあまりないと思います。このような交流は、こどもたちに優しさを育む大切な要素だと感じました。

校舎全体も温かい雰囲気であり、そうした環境が大きなメリットであると再認識しました。デメリットも存在しますが、それ以上にこどもたちのためにアピールできるメリットが大きいと感じました。

委員Ｈ　同じような話ですが、自由に伸び伸びとやりたいことができる環境についてお話を伺いました。このような環境がどのように進められているのかお聞きしたところ、先生方が地域の方々の協力があってこそ実現できているとのことでした。

現在、江田島でもこどもたちともっと関わりたいという地域の方々の声を実際に聞いています。このように江田島市全体で「こういうことをやりたい」と声を掛ければ、協力してくれる方も多くいるのではないかと感じています。そういった実現ができれば素晴らしいなと思いました。

委員長　ありがとうございます。

義務教育学校も含め、いろんなタイプの校種というか、その中でもいろんな努力っていうのがあるかなという、改めて私自身も思っていました。時間のこともありますので、次の保護者アンケートの結果について事務局の方から説明をお願いします。

事務局　それでは、保護者アンケートの結果をご覧ください。

第２回委員会では、時間をかけて検討いただいたアンケートの結果を報告いたします。このアンケートは、令和７年１２月３日から１２月２６日までの期間に、江田島市内の小中学校の保護者及び今後小学校に入学するお子様を持つ保護者に実施しました。

対象者は１，０３７名で、回答者数は４８４名、回答率は４６．６７％となっています。集計表の見方についてご説明いたします。

それぞれの設問に対して、全体の集計、学校種別（こども園以下、

小学校、中学校)、そして地区別の集計を掲載しています。

なお、地区別集計に関してですが、例えば切串地区は認定こども園の切串と切串小学校に通っている子どもを持つ保護者からの回答を含んでいます。注意点として、一番下の子がどのこども園にも通っていない場合、その地区別集計には含まれないことを御理解ください。

江田島地区の回答は、認定こども園えたじま、江田島小学校、江田島中学校に通っているこどもを持つ方からのものです。

今回のアンケートでは、自由記述の欄も設けており、多様で貴重な意見を多数いただきました。ただし、中には真偽が不明な内容や個人を中傷するものも含まれていたため、そういった意見は伏字または一部を削除して掲載しています。この点については御了承いただければと思います。

今回いただいたアンケートの意見は、今後、小中学校の運営や改善に役立てていきたいと考えています。限られた時間の中で、特に学校の規模に焦点を当てて説明させていただきたいと思います。この資料の第３部が特に重要な部分ですので、こちらについて詳しく説明いたします。少し前方でパワーポイントも使いながら説明させてください。

これから画面にお見せする資料と同じものを配布いたしますので、第３部をクローズアップして御覧ください。まず、第３部の学校の適正規模・適正配置に関する質問についてです。

一つ目の質問は、「人数の少ない学校（1 学年 10 名以下または複式学級）について良いと思われる理由を 3 つ以内でお答えください」というものです。この質問に対して、多くの方から「先生が１人１人の学習状況や内容を把握しやすくなる」との回答が寄せられ、６９．３％となりました。次いで、５４．９６％の方が「補充指導や個別指導が行いやすくなる」と回答し、３３％の方は「意見や感想を発表できる機会が多くなる」と答えています。いずれも、個に応じた指導がしやすいという意見が多く見受けられました。

続いて、人数の少ない学校について「よくない」と思われる理由を３つ以内で選んでくださいという質問には、やはり人間関係の固定化が大きなウエートを占めました。「ずっとクラスが変わらないため人間関係の固定化が懸念される」が５４．３４％、「班活動やグループ分けがしにくく、いつも同じメンバーになる」が４０．５０％、「クラブ活動や部活動の種類が限定される」が３８．６４％という結果でした。人数が少ないことによる活動の制限と人間関係の固定化を懸念される方が多かったように思います。

次に、小学校の複式学級に関するお考えを選ぶという質問では、一番多いのは「やむを得ない」という回答でした。約５０％の方がその

ように答えています。一方で、「できるだけ避けるべきである」と考える方は４０．０８％です。やむを得ないという意見の方が多い傾向が見られます。

次に、「1 学級当たりの人数は何人が適当だと思いますか」という質問に対する回答を、小学校と中学校それぞれで聞きました。「２０人から２９人」が圧倒的に多く、小学校では６６．９４％、中学校では６６．３２％がその範囲内を希望しています。小学校では１０人から１９人が２１．０７％、３０人以上が８．４７％となり、つまり１０人から３０人という幅が望ましいと考える方が９０％近くを占めています。

中学校では３０人以上が１８．３９％ですから、２０人以上が望ましいと考える方々が８０％を超えています。

複式学級はやむを得ないという意見がある一方で、１０人以下の学級においては、実際には０．４１％しかいないという結果も出ています。

続いて、「ひとつの小学校の児童数に関するお考え」という質問では、小学校は「各学年１クラスの人数が良い」と答えた方が４２．３６％、「クラス替えができる程度の人数がいた方が良い」とする意見が４１．１％で拮抗しています。また、「複式学級ができる人数でも良い」という意見が１４．６７％でした。

中学校においても、多くの方が「各学年にクラスを構成できる程度の人数が必要である」と考えており、これが５０％近くを占めています。「各学年に１クラス程度の人数でも良い」という意見は３２．８５％、「各学年に複数のクラス（例えば、１組、２組など）がある方が良い」との結果は１５％程度でした。

次に、「小学校の児童数が減少した場合の市の対応について」お伺いしました。小学校では「複数の学校を統合し児童数を確保する」という意見が４４．８３％、中学校でも同様の統合の意見が４６．２８％を占めています。一方で、小学校の児童や学級数に応じて学校間で差があっても統合は行わないという意見も２６．０３％あります。中学校に関しては、通学区域の見直しを提案する意見が２６．２５％見られました。

これらの結果を踏まえると、江田島中学校区を広げることを示唆する意見もあり、今後の方向性について一考する余地があると感じます。

以上、学校規模に関するアンケート結果を中心に説明させていただき　ました。この結果を参考に、ぜひまた議論をいただければと思います。

委員長　今から、江田島市の目指す適正な学校規模について、この委員会での考えをまとめ始めます。事務局からも提案をいただきましたが、急に一人一人の意見を言ってもらうと、なかなか考えがまとまらないことがありますので、私からの提案です。

同じ机を共有している方々、例えば２人または３人のグループで、まず隣の方と今の報告を聞きながら、学校の適正規模についてどのような学校だと思えるか意見交換をしていただければと思います。

時間は５分から１０分ほど設けますので、隣の方と報告内容やアンケートを見て、感じたことについて意見をお聞かせください。

【意見交換】

委員長　全体で様々な議論や意見を出し合い、共通理解を築いていければと思います。正副委員長で話し合った結果、江田島の地理的な特徴に関連して、例えば公共のバスを利用する際の通学方法について、単純に人数の問題だけではないという意見が出ました。中学校までは少人数で仲良く過ごし、先生方の良い教育を受けられたものの、高校で広島に行った際に大規模な環境に適応することが大変だったという声もありました。

そのため、少人数ではなく、クラス替えができるような人数についても検討する必要があるという意見がありました。具体的に江田島でどれくらいの人数が妥当かまでは到達していませんが、皆さまの思いをお聞きしながら、江田島市の小学校と中学校でどのくらいの人数が適切かを考えていきたいと思います。

グループごとに意見をまとめるのではなく、それぞれの意見を自由にお聞かせいただければ幸いです。

いかがでしょうか。

委員Ｅ　私たちの議論には、三つの主要な話題がありました。

まず一つ目はアンケートについてです。理想的には、クラスの人数はアンケートの３－４や３－５の回答のとおり、クラス替えが可能な形が望ましいと考えています。しかし現実的には、いろいろと難しい点があるため、保護者の心理として３－３の人数で諦めている部分があるのではないかという意見が出ました。

二つ目は、学校の統合についてです。学校はどうやっても統合していく必要がありますが、主に三つのパターンがあると考えています。一つは「水平統合」で、従来から行われている小学校同士を合わせる方法です。二つ目は「垂直統合」で、小学校と中学校を先に統合する

という最近の流行です。この方法は、地域から学校がなくならないので反発が少ないと思われますが、職種が異なるためにいろいろと難しい面もあり、これまで検討されなかったのかもしれませんが、最近は様々な問題を解決するのが難しいからこそ垂直に統合しようという流れがあるのではないかと思います。そして三つ目のパターンとして、水平と垂直を一緒に進めるという方法があります。それぞれにメリットとデメリットがあり、自治体の実情については知識が不足している部分も多いため、そのあたりの情報を知りたいという話が出ました。

三つ目は、水平統合に関する議論です。この統合には地域からの強い反発が起こる可能性があるという意見がありました。私自身も、来年から中町小学校において子ども会を一つにまとめることになっています。昔は各地区でラジオ体操や６年生を送る会など、特徴的な活動を行っていましたが、人数が減少してきたため、リーダーを選び、会計を持って運営することも難しくなりました。そのため、高田地区や中町地区など、３つの子ども会を一つに統合しました。

しかし、高田の方では問題が生じており、中町はまだ中町小学校があるのでそちらからＰＴＡの方に相談があるんですが、高田は学校がなくなったため、地域のまち協から直接募集をかけて活動を行っているので、子ども会を統合したら今後はどうするのかというような話もあります。

統合に際しては、地域からの反発がまだ根強いことがわかりました。

これから高田の方にも説明しなければならないと思っていますが、学校と地域の問題は、本来は分けるべきものだと考えています。しかし、昔の考え方を持つ方も多いため、その辺りが非常に難しいと感じているのが現状です。

委員長　はい、ありがとうございます。

委員Ｉ　私たちは３人で話し合いました。その中で、保護者世代からの意見として「ある程度の人数がいた方が良い」という声がありました。具体的には、２クラス程度でクラス替えができるような規模が望ましいという意見がありました。

現在、こどもたちは逃げ場がない中でも、何とかがんばっている状態だが、中学校に進む際に「この集団ではやっていけない」と感じるこどもたちは、結果的に私立へ進学する現象が見受けられることが懸念されています。また、高校進学の際には大人数になることから、ギャップを感じることも考えられるため、その対策が必要だという意見もありました。更に、男女比についての懸念もあります。人数が減る

と、男子が多く、女子が少ないという偏りが生じる場合もあります。
このような点についても気になるところです。
また、資料にある、小学校の児童数がさらに減少した際のアンケート結果として、児童数を確保することが大多数の意見でした。
しかし、保護者世代の意見としては、統合するのなら早めの対応を希望する声が多く聞かれました。通学距離が遠くなっても、人数が多い方が安心だと考える意見がありました。

委員長　はい、ありがとうございました。

委員G　私たちのグループでも似たような話になりました。
特に最後の質問項目に着目すると、こどもたちのことを考えた場合、児童数や生徒数を確保するという意見が半分程度、地域に学校を残したいという思いが半分程度あり、この半分程度の統合を行わない方針は地域の文化や伝統を大切にすることにも関わってきます。この価値付けは非常に難しいのが現状です。
実際、私は切串地区にいましたので、切串中学校の統合に関して多くの意見を聞いた経験があります。ＰＴＡの副会長として、一軒一軒の家庭を訪問し、多様な思いを伺いました。その結果、地域の思いが強い場合は統合を避けるという印象が強くなります。しかし、こどもたちの視点から見ると、統合後にサッカー部などのスポーツ活動ができるようになり、大変良かったという意見もあります。
こどもたちを幸せにするためには、将来的に大きな高校へ進学する際、人数が多い環境での対応力も考慮する必要があります。また、小学校や低学年のこどもたちが遠くの学校にバスで通うことの負担も無視できません。そのため、これらの点を十分に検討し、どのように折り合いをつけていくかが重要だと感じています。このような意見を交えた話し合いを行いましたが、結論には至っていません。

委員長　はい、ありがとうございました。

委員D　アンケートの最後の方に、たくさんの意見が寄せられていました。
その中に「義務教育学校と普通の学校をそれぞれ一つずつ設けてはどうか」という提案があり、興味深く思いました。また、複式学級でも良いという意見もありました。
私自身、お稽古事をしているので、その立場から考えると、複式学級であれば人数が少なく、マンツーマンで先生からしっかりと教えてもらえるという利点があるのではないかと感じています。大勢の中で

学ぶよりも、個別指導の方がこの子にとって良いのではないかと思うこともあります。
　このように、異なるタイプの学校を設けることについて、考えていらっしゃるのでしょうか。

事務局　　事務局ですが、本当にいろんな意見いただいて、この委員の方々がやはり江田島市には多様な学校を作るべきではないかという御意見が出れば、やはりその方向で私達は取り組んでいくべきかなとは思っております。

委員Ｄ　　この義務教育学校と普通の学校っていうのはいいかなと思ったのですが。

委員長　　現状、竹原市はそういうことですよね。

事務局　　そうですね、全て今後は義務教育学校にされると聞いております。

委員長　　こどもの数が減っていって、対策としては、最終的には全てを義務教育学校していく。
　ただ現状では、新たに義務教育学校を作って、小学校、中学校は別々のところもあるということでいいですか。

事務局　　はい。

委員長　　それとはまた別に、江田島市はこどもが選べるようにっていうのが、出していただいた御意見ですかね。義務教育学校もあるし、地元の近いところで複式のところもあるし、なかなかこどもが通うと大変であれば、複式というふうな。

委員Ｄ　　今、三高小学校は全部複式ですか。

委員Ｊ　　いえ、今は５，６年と２年生だけ単独で、来年度から５，６年と３、４年で複式になって、１，２年生がいないという感じです。

委員Ｄ　　複式学級で勉強していらっしゃる人たちの生徒さんの思いとか父兄さんの思いとかっていうのはどうなんですかね。
　そうだから、そこに行くって感じですよね。

委員Ｊ　　そうですね。変われないからっていう感じ。

委員Ｄ　　別に意見とかいうのはないんですか。
複式だからこうとかいう、良いとか悪いとかいうような意見はない。

委員Ｊ　　そうですね、複式だからどうとかいう意見はないです。
複式学級の良さについて考えると、異なる学年のこども同士が自発的に助け合える環境があることは素晴らしいと思います。上の学年の子が下の学年の子を教えてあげるというような、自発的な学びの機会が提供されるのは良い点です。
ただ、参観日などを見たとき、こどもたちの中で自分でスラスラ学んでいる子と、そうでない子の差が気になることがあります。特に、先生のサポートがないと進められない子がいる場合、保護者としては少し不安を感じることもあります。しかし、保護者同士の間で「これが不満だ」とか「これは嫌だ」といった意見を聞くことはあまりないというのが現状です。

委員Ａ　　切串小学校も複式学級の学年がありますが、保護者たちは複式学級について良いとか悪いとかを言う前に、現状、そういうものだと受け入れているという感じです。「これをなんとかしてください」といった声はあまり聞こえてきません。むしろ、「複式学級というものはこういうものだ」という認識が広まっているようです。そのため、具体的な意見を聞くことはあまりないと思います。
現状はそのような状況です。

委員長　　はい、ありがとうございます。

委員Ｋ　　私の孫が鹿川小学校に通っていますが、現在の状況を考えると、児童数が少なすぎて、あまり喧嘩が起きない状態です。私たちが懸念しているのは、小学生や中学生の時期に学ぶべき重要な要素、つまり社会性や葛藤、協調性といったものが、今の状態では十分に身に付かずに高校に進学してしまうのではないかということです。その結果、挫折を経験するのではないかと非常に不安に思っています。
そこで、私たちはこの点について考慮しながら話を進めました。やはり大切にすべきはこどもたちの思いであり、こどもたちをどのように大事にできるかを考えることが重要です。保護者の思いもたくさんあると思いますが、最終的にはこどもたちがどのように感じているかをしっかりと考慮し、みんなで良い方向に持っていけたらいいなとい

う話をしました。

委員Ｃ　ちょっと個人的に驚いたのは、こどもが少なすぎたら喧嘩も起こらない、我慢する子は常に我慢するというところで、そう言われればそうだなと感心しました。

委員Ｋ　社会の中で上下関係ができてしまうと、「この子が言うのならまあいいか」と思ったり、何か気持ちがあるのに流されてしまうことがあります。私たちがたくさんのこどもたちと共に過ごしていた頃は、葛藤を抱えながら泣いたり喧嘩をしたりしながら、クラスがまとまっているという形がありました。しかし、今はそのような感情があまり感じられないことに、孫を通じて強く気づかされました。

これが良いことなのか悪いことなのかは一概には言えません。

良いと思える点も多くありますが、学ぶべき時期に重要なことを学んでいないように感じるため、それが非常に気になります。

委員長　はい、ありがとうございます。

委員長　こどもの意見を聞くために、アンケートを実施するべきだという意見もありますが、実際にどのように聞いていくかという点は難しいと感じています。ある程度の意見を聞いたからといって、それで全てが解決するわけではないように思います。

個人的には、複式学級を担当されている先生方がどのように感じているのか、その意見もぜひ聞いてみたいと思います。こどもたちの気持ちをよく理解している先生も多いのではないかと感じています。

また、江田島市の小学校や中学校の適正な学級人数についても、ご意見を伺えればと思います。

委員Ａ　統廃合や義務教育学校の設立について考える際、まずは基準が必要だと思います。例えば、ある特定の人数に達したら、垂直または水平の統合を始めるというビジョンがあれば、校舎の学級数が減少している場合、具体的な手続きが自ずと進むことになります。現実には、例えば「三高小のように小学校の学級数が３つになった場合には、教頭が担任を持たざるを得ないため、統廃合の話を始めます。」といった具体的な流れがあれば、２年後には手続きを開始するといった議論がしやすくなります。そのために、基準を設ける必要があると考えています。基本的には、小学校が統廃合される場合や、大古小学校と大柿中学校のように地域で１対１になっている場合には義務教育学校の検

討を始めるといった明確な方針が必要です。その「こうなったらこうなる」という流れを示すことで、市民全体がこの問題に参加しやすくなります。

また、切串地区だけが５４％という高い割合で統合を行わないという結果には驚かされました。

それでも、抵抗感を持っている声もあるため、基準を作り、それを全市民に周知することが必要です。これによって、現役世代が切串に移住したくなるような施策を考えるなど、市全体の話題へと繋げていくべきだと思います。

最終的には、こどものためにどうそれを実現するかが重要ですが、こどもたちのために基準を見える化し、将来のビジョンを示すことが大事だと感じています。

委員長　はい、ありがとうございます。

委員Ｆ　あまり話し合いが進んでいないのですが、現在の出生数を考えると、６７人という数が出ています。単純に言えば、２０人程度のクラスになると、学校は３校しか残らないという現状です。また、アンケート結果では２０人か３０人くらいのクラスサイズが望ましいとの意見もある一方で、学校自体の統合には反対するという意見があります。

このようなギャップが存在することは気になります。

私は、こどもの意見を聞くためには、より具体的で実践的なアンケートが必要だと思います。例えば、中学校に進学する際に「サッカーをやりたいですか？」「もっと友達が多い方がいいですか？」といったような具体的な質問をすることで、こどもたちの気持ちをより明確にすることができるのではないでしょうか。

現在のアンケート回答には、私たちが生きてきた中でこうした方がいいと思うという大人の意見が反映されているのかもしれません。

こどもたち自身の意見をちゃんと聞くためには、例えば三高のこどもたちが実際にどんな学校に行きたいのか、認定こども園なかまちで一緒だった、中町のこどもたちと鹿川のこどもたちが別れたくないと感じているのではないかという点も確認すべきだと考えます。更に、将来的に学校が統合された時に、団体活動が苦手なこどもたちの受け皿についても視野に入れる必要があると思います。

委員長　はい、ありがとうございます。

委員Ｌ　グループワークで話したことではないのですが、アンケート結果を

ざっくり見てみると、解釈が非常に難しいと感じています。現在、水平的統合か垂直的統合かという議論がありますが、ここでは主に水平的統合を想定して、クラスの人数を増やす、あるいはクラスを増やすという話がされています。具体的には、３－６や３－９のように、複数の学校を統合して児童数を確保するという横の統廃合を前提にしていると思われます。その一方で、先ほどの視察報告に基づく、小学校と中学校を一つに統合する垂直的統合については、このアンケート結果だけからは十分な根拠が見えてこないのではないかと考えています。

このため、アンケート結果を踏まえた義務教育学校の姿というものは、明確には示せないのかなと思っています。この点を踏まえた上で、先ほど何度か出てきたように、やはりこどもにとって何が一番重要かという視点が大切だと思います。前回もお話ししましたが、吉名学園の報告の際には教育次長の方が、こどもにとって結局何が大事なのかという点を非常に強調されていたのが印象に残っています。こういった視点も十分に考慮すべきだと思います。

委員Ｅ　こどもにとって何が正解かというのは非常に難しい問題ですね。

私たちが持っている情報では、「少ない方が良い」「多い方が良い」といった感覚があり、実際に日本でこのような調査を行ったかどうかは定かではありません。ただ、昔からの感覚では「これが良いのではないか」と考えられているのかもしれません。

しかし、こどもたちにアンケートを実施したとしても、複式学級しか知らないこどもたちにとっては、多人数のクラスの世界を知らないため、良いも悪いも判断できないのではないかと感じています。それゆえ、人数を多く見てきた先生方の意見の方が、より参考になるかもしれません。

そのため、このあたりについては、ぜひさまざまな御意見をいただければと思います。江田島市としては、少ない方が良いのか多い方が良いのかといった推奨事項についても、ぜひ先生方からお話を聞かせていただきたいと思っています。

委員Ｉ　教員の立場から言うと、教員は一つのクラスを最大限に活かし、こどもたちの力を伸ばそうとする取組を行っています。複式学級であれば、その特性を生かしてこどもたちが成長できるように指導をしています。確かに大変な面もあります。例えば、複式学級では「渡り」という制度があり、３年生を半分の時間見て、その後、別の学年を指導するというスタイルが求められます。このような状況では、指示を出

してから異なる学年を指導しなければならないため、大変さが伴います。しかし、これを上手に活用することができれば、こどもたちの自主性やさまざまな力を育むことができます。教員は、その良さを生かすよう努力していると思います。

一方で、複式学級のデメリットもあります。例えば、３年生と４年生の間で次の年に単式学級に戻るような場合、隣の学年の人数によって教育環境が変化します。このことでこどもたちが不安定になったり、教職員もそれに応じた配慮が必要になるという点は、デメリットと見なされます。教育環境を整えるためには、こうした統合などについて検討することが求められると考えています。

また、こどもへのアンケートについて触れられましたが、こどもたちは約１２年しか生きていないため、その中での経験を元に意見を述べるのは難しいケースが多いです。時には隣の芝生がよく見えることもあります。そのため、大人がしっかりと勉強しながら決定していくことが大切だと思っています。

委員Ｇ　中学校の立場から、私自身もこどもたちの環境を最大限に活用して、彼らを伸ばそうと努めています。しかし、こどもたちに多様な体験をさせることは重要です。以前、私は大柿中学校で教えていた頃、約４００人、４クラスの環境にいました。その時は、多くの部活動があり、選択肢も豊富でした。

次に、沖中学校に異動した際は、規模が小さくなり、クラスが１０数人となりました。そのため、部活動も固定化され、卓球部やバレー部、吹奏楽部といった限られた選択肢しかありませんでした。卓球が嫌いな子は選べないですし、バレーは女子しかおらず、窮屈さを感じることもありました。しかし、小規模であるからこそ、海辺での調査や黒神島を船で一周するなど、特別な体験もできました。このような体験を通じて、こどもたちとの絆を深めることができたと思います。

教員としては、こどもたちを良い方向に育てるために努力しており、それが一番大切だと感じています。また、先ほど触れた宮島の話の中で、義務教育学校での部活動について言及しましたが、そこでは５年生からテニス部に参加可能です。ただし、中学校の時間までは練習しないため、少し短めに１時間弱程度の練習を行います。吹奏楽部は４年生が参加できるようになっており、これにより小学生も中学生の姿を見て「あんなふうになりたい」と思うことができ、成長を促す要因になります。

主体的なこどもを育てるには、先輩との縦の関係が重要です。実際、小学校の５年生は最初は荒れていましたが、成長を遂げて高校ではイ

ンターハイに出場し、全国大会にまで進出するようなソフトテニス部に成長しました。このような実態を考えると、江田島市にある小規模な学校が集まる案も一つの方法ですが、交通の便によっては通いにくい場所もあるため、さまざまな検討が必要です。それでも、教師としてはこどもたちの力を引き出すことを追求していきたいと思っています。

委員Ａ　多分、こどものために何が重要かと言うと、私が自分の叔父から言われていることで、叔父は「切小がなくなるらしいのう」と言ったのですが、私は「いや、決まってないよ」と反論しました。その時、叔父は「お前がＰＴＡ会長になったら絶対に無くすなよ」と言いました。

私は、「切串中学校をなくすと言ったときに、小学校は絶対に残すと言っていたのだ」という趣旨で、話をしたのだと思っています。

ここにいる方々は、議論を重ねる中でこどものためを考えて発言していると思うのですが、その反面、そういうことを言う人々の中で「この人ならこういうことを言うだろう」とか「この人はこう考えているだろう」といった先入観が、皆さんの頭の中にあるのではないかとも思っています。

委員長　はい、ありがとうございました。

皆さん、しがらみをお持ちのようですね。アンケートから見えてくるのは、統廃合をしてでも、こどもがいろんな経験をする機会、つまりクラス替えができるような環境が重要であるということです。

その一方で、地域の学校をなくさないことも大切であり、これは一種の矛盾があると感じました。

水平統合と垂直統合の提案についてですが、確かに垂直統合の案はこれまで市民の方には提示されていなかったと思いますし、今回初めてここで議論されたため、新たなオプションとして考える価値があると思います。

今後、スケジュールを示してパターン化し、「ここに行く場合はいつ頃何をしなければならないのか」といった見える化に努めていただきたいです。こどもの人数が減少する中で、現存する学校をすべて残すとなると、すべてが複式学級になってしまうというイメージを持つことも重要です。そのため、統廃合を行う場合、その決断をいつ下すべきかというスケジュールと見える化できるようものを事務局で策定していただきたいです。

また、この情報を市民の方々にいつお見せし、教育委員会に報告す

るかについても考えていければと思います。
　おっしゃる通り、これは教育問題ではなく人口問題であり、人口の変化に合わせて教育の形態を変えざるを得ない状況です。
　仕方がない部分もありますが、教育の形態を変えることによって、こどもたちにさまざまな経験を提供できるのだと示していくことが重要です。これにより、垂直的な議論や通学の拡充、クラブ活動の提案なども含めて考えることができれば良いと思います。
　では、事務局にお返しします。

事務局　はい。本日はありがとうございました。
　今いただいた意見をもとに、自分たちの方で「見える化」やプランの準備を進め、いくつかの案を示して皆さんに検討していただければと思います。
　また、こどもたちの思いを聞くという点についても、さまざまなご意見をいただいています。もちろん、大人が決めるべきことでもありますが、その中で少しでもできることを探っていきたいと考えています。こどもたちに意見を聞くのは難しい面もありますし、彼らはまだ経験が乏しく、自分の世界が全てだと感じています。そのため、彼らが出す意見がどのようなものであるかを知るのは簡単ではありません。しかし、それでもこどもたちには考えを持っている場面もあると思います。実は、今度、ＰＴＡ連合会が小・中学生を集めた１泊２日の合宿を計画しているようです。各学校のリーダーが集まる場で、学校に関する今後の思いを聞く機会を設ける予定です。しかし、その際には意義のある意見を引き出すために、恣意的にならないよう注意が必要であり、非常に難しい課題です。それでも、こどもたちの思いが引き出せるような場を持ち、今回の検討作業の参考になるような情報を得られればと考えています。
　本当に難しい課題で、どこまでできるか分かりませんが、チャレンジをしてみたいと思います。それを次回には出せるように取り組んでいきますので、よろしくお願いします。
　以上です。

事務局　第５回江田島市学校規模適正化検討委員会につきましては、年度を変え、５月頃に開催を計画しております。
　次回の会議では事務局から提案を出せるよう準備を進めたいと思います。詳細な日程につきましては、年度をまたぎ、４月頃になるかと思いますが、日程調整が完了次第ご連絡させていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

委員長　　はい、ありがとうございます。予定の時間ちょっと過ぎた感じもあるんですが、その他なにかありますでしょうか。

では以上をもちまして本日の協議を終了させていただきます。

ありがとうございました。